

暑熱対策について

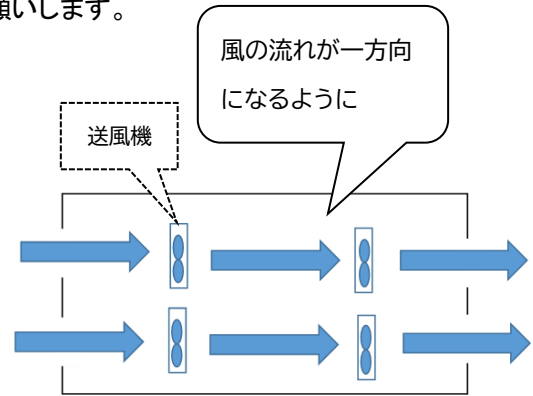
牛は暑さに弱い動物です。気温 18℃を超えると暑熱ストレスを感じ始め、25℃以上となると体温が上昇し、乾物摂取量の低下、乳生産の減少につながります。さらに湿度も高いと、暑熱ストレスの影響は増大します。なお昨年8月は、最高 30℃以上となった日が 13 日間もありました(足寄町アメダス)。

牛にとっては過酷な環境になっているので、十分な対策をお願いします。

対策

1 しっかり換気しよう！

- ・扉や窓など、取り外せるものは全て取り外して開放する
- ・送風機が複数ある場合は、牛舎内を一方向に風が通るように設置する(風の流れのじゃまになる障害物は、できる限り移動する)
- ・汗をかきやすい首から肩にかけて、風が当たるようにする



2 エサのやり方を工夫しよう！

- ・採食量が落ちないように、できる限り嗜好性のよいものを給与する(早刈りのロールやきざみサイレージなど、NDFが低く、消化性の良いもの)
- ・発汗によってビタミンやミネラルも失われるので、1割ほど増給する



残飼がなく、きれいなウォーターカップ

3 きれいな水がいつでも飲めるように！

- ・残飼を取り除き、こまめに清掃する
- ・吐水量は十分かどうか確認する

4 その他工夫事例など

- ・寒冷紗やすだれを窓に取り付け、直射日光が牛に当たらないように工夫
- ・窓から鳥が侵入するのを防ぐために、ネットを設置する
- ・屋根に水をかけ、外からの暑さが伝わらないようにする
- ・牛舎内にミスト+送風機を設置する(体感温度を下げる)

すだれをかけて、直射日光が当たるのを防ぐ



暑熱ストレスを長期で受けると、秋以降の繁殖等にも大きな影響が出ます。できるところから暑熱対策に取り組みましょう。

(2021年8月発行 十勝農業改良普及センター十勝東北部支所)

鳥の侵入防止のため、窓枠に牧草用ロールネットを設置

